

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：横浜市菊名保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：古村 朋子	定員（利用人数）：78名（84名）
所在地：〒222-0011 横浜市港北区菊名3-10-20	
TEL：045-433-1259	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1974年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市	
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員：28名
専門職員	保育士 24名、調理員 4名
施設・設備 の概要	1～2歳児室： 2室 職員休憩室： 1室
	3～5歳児室： 3室 トイレ： 3室
	調理室： 1室 予備室： 1室
	事務室： 1室
鉄筋コンクリート造3階建ての1階部分 延床面積	園庭 237.6㎡ 383.48㎡

③ 理念・基本方針

【保育理念】 <ul style="list-style-type: none">一人一人の子ども立場や想いを第一に考え、子どもたちがよりよく生きていけるように願い、保育していきます。
【保育方針】 <ul style="list-style-type: none">家庭や地域社会と連携して、保護者とともに子どもの育ちを支えます。子どもたちが伸びやかに活動し、健やかにゆとりある生活ができる環境を確保し、健全な心身の発達を支えます。保育の中での様々な体験を通して、豊かな感性と生きる力を育てます。地域コミュニティと積極的に関わりながら、一緒に地域の子どもを育てる環境づくりをしていきます。
【保育姿勢】 <ul style="list-style-type: none">ありのままの子ども姿を受け止め、心と体の成長を援助していきます。子どもが遊びたくなるような環境をつくり、なんでもやってみようとする気持ちを育みます。安全な環境を整え、心地よく安定した生活が送れるよう配慮していきます。家庭や地域とのつながりを大事にし、共に子育てをしていきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】 <p>横浜市菊名保育園は、JR横浜線・東急東横線菊名駅から徒歩15分ほどの高台に位置し、周辺には自然の地形を利用し、緑に恵まれた公園や住宅地が広がっています。</p>
--

す。園庭は383㎡あり、桜や梅、柿、金柑等、季節を感じられる樹木があります。自然に親しみながら子どもたちがのびのびと遊んでいます。1974年4月に開園し、園舎は老人福祉センターが併設された鉄筋コンクリート造3階建ての建物の1階部分で、1～5歳児84名（定員78名）が在籍しています。

【園の特徴】

- 子どもたちは、保育園での豊かな生活や遊び体験の中で、周囲の人々や友だちとのかかわりを心地よく感じたり、学んだりしながら成長しています。
- フォトカンファレンス（写真を活用した保育の振り返り）やドキュメンテーション（子どもの活動の様子を写真やコメントで説明したもの）の掲示、保育士体験の実施等による保育の見える化に取り組んでいます。
- クラスごとに年間を4期に分けた食育計画「たべるのだいすき」を作成し、食育活動や栽培活動に積極的に取り組んでいます。
- 地域の子育て支援や地域とのつながりを大切にして、交流保育、園庭開放、育児相談、育児講座、出前保育等に積極的に取り組み、地域からも親しまれています。
- 5つのプロジェクトチーム（環境、健康衛生、危機管理、園内研修、第三者評価）を組成し、非常勤職員を含む職員同士が連携し役割を分担して、業務の実効性の向上、保育の質の向上に取り組んでいます。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月9日（契約日） ～ 2024年2月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥ 総評

◇特長

1. 子どもが主体的に活動できる環境作り

今年度「子ども主体の保育とは」をテーマに、「保育ウェブ」の手法を使い、お楽しみ会を通して実践につなげる取組を行ないました。

4、5歳児は、お楽しみ会の企画段階から、サークルタイム（こども会議）で話し合い、アイデアを出し合いました。保育士は、子どもたちの思いや、保育士の働きかけ等を、模造紙に「ウェブ（蜘蛛の巣）状」に書き出し、子どもたちの発想がさらに広がるよう援助してきました。

子どもたちは、自分が楽しいと感じることについて、自分たちで主体的に進めていける環境を、保育士と共に作り上げて行き、達成感を得て自信につながるようになっていきます。お楽しみ会終了後には、保育士は、保育ウェブで確認しながら、子どもの姿が変化する様子を振り返り、子ども主体の保育はどうだったか、保育士の関わりは適切だったかなどにつき、意見を出し合い、振り返りを行っています。

2. 子どもの育ちを保護者と共有し、相互理解を深める取組

春の保護者懇談会で、3～5歳児クラスの保育士は、ドキュメンテーションを用いて、子どものエピソードを伝え、子どもの成長や今後の見通しを保護者と話し合い、共有しています。子どもの日々の活動の様子は、写真やコメントを付したドキュメンテーション形式の紙面を保育室の外に貼り出して、お迎えの際に見てもらいながらエピソード等を語り合っています。

今年度は、コロナ禍でできなかった「保育士体験」を、個人面談の際に復活することができました。保護者は、保育士体験を行なうことにより、実際に子どもが保

育園でどのように過ごしているかを知ることができます。体験後の保護者からは、「子どもと保育士とのふれあい、他の子どもとの交流等を見て、自分の子どもの成長も実感でき、大変参考になった」「保育の大変さ、保育士のすごさを改めて実感した」等の感想が寄せられています。

園では、保護者に子どもの様子をドキュメンテーションで伝え、実際に保育士業務を体験してもらうことを通して、子どもの育ちを園（保育士）と保護者が共有し、相互理解を深めていけるよう取り組んでいます。

3. 活発な異年齢交流に向けた保育士の援助

1・2歳児グループと3・4・5歳児グループごとに、年間を4期に分けた「異年齢保育計画」を作成し、異年齢保育に積極的に取り組んでいます。年度の前半では、3・4・5歳児グループは散歩やクッキング、リズム遊び等で異年齢保育を行ない、年度後半からは、1・2歳児グループのお世話や散歩で年下の子どもと関わりを持つようにしています。

異年齢保育計画の全期間を通して、3・4・5歳児は「朝、夕方や園庭、雨の日の室内で他クラスと関わって遊ぶ」としています。（1・2歳児は園庭のみ）調査日にも、園庭で、複数クラスの子どもが同時に遊んでおり、砂場あそびや鬼ごっこ等の集団遊びでは、子どもたちは、年齢を超えて遊び、年下の子どもをかわいがったり、ままごとでお客さんになってもらったりする姿がありました。保育士は、こうした異年齢交流を通して、子どもたちの興味や関心の幅が広がっていくよう援助しています。

◇今後期待される点

1. 地域の子育て支援を推進する園の役割・取組の継続

コロナ禍の中でも地域に向けた、育児講座、園庭開放、交流保育、各種イベント等を可能な限り実施してきました。今後も、ウイズコロナに向けて、地域の子育て支援を推進する園の役割・取組を継続していくことが期待されます。

2. 園情報をわかりやすく公表する工夫

横浜市のホームページの「えんさがしサポート☆よこはま保育」やワムネットの「ここdeサーチ」に園の基本情報を記載し、利用希望者に必要な情報を提供しています。さらに、子どもの活動や遊びの様子を写真で示すなど、具体的にわかりやすく公表する工夫が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

菊名保育園は平成30年度に第三者評価を受審しています。今回の受審にあたり、自園の保育を振り返り、日頃の保育を見直す機会となり、保育の質向上につながりました。

園内研修を兼ねて、会計年度任用職員を含めた全員が小グループに分かれて保育を振り返り、意見交換を行いました。話し合いの中で出た意見を共有し、もう一度確認したいことは再度グループで話し合う等、有意義な時間を持つことができました。資料を作成するにあたり、自分たちの保育を整理し文章にすることで、日頃の保育が自分たちにとっても見える化され、自園の強みと課題を再認識することができました。

こうした取り組みの中で、子どもたちの「やりたい、やってみたい」をどう形にできるか、子ども主体の保育とはどういうことか、を職員間で語り、保育に取り入れてきました。これからも、子ども一人一人の声に耳を傾け、子どもたちが主体的に活動

できる保育を進めていきたいと思ひます。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。今後も、保護者の皆様と一緒に子育ての楽しさや喜びを共感していきたいと思ひます。また、丁寧な調査と聞き取りで、当園の強みと課題を明確にさせていただいた評価機関の皆様には感謝申し上げます。今後も職員一同、力を合わせて保育の質向上に努めてまいります。

菊名保育園 園長 古村朋子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり